

# セーフラネット Saflanet 第2号

## あんしん住み替え相談窓口の創設

熊本市では近年、空き家が年々増加傾向にあり、平成20年度の調査では、およそ14%が空き家です。中でも築年数の古い物件や利便性、立地条件の悪いアパートなどで空き家が多いようです。しかし、空き家が増えていく状況にあっても、高齢者や障がい者、子育て世帯などの方は入居を拒まれるケースも多いといえます。

その一方、熊本市営住宅はとても申込みが多い状況が続いており、抽選で入居者を決めています。平均倍率は10倍以上となっていて、申し込んでも必ず入居できるとは限りません。

また、少子高齢化が進む中で、ご夫婦や単身の高齢者が広い一戸建てに暮らし、子育て世帯が狭い賃貸住宅に住むというような住まいのミスマッチも起こっています。熊本市でも、住み替えについての問い合わせが増えてきました。

自分に合った住宅や施設を探そうとしても、どこにあるのかがわからない。どのように探したらよいのかもわからない。そのような方々のお悩みに応え、その人に合った最適なお住まいの情報をお届けしたいと思ったことが、この窓口を創るきっかけだったのです。

アパートや賃貸マンションなどの住宅情報と老人ホームやグループホームなどの福祉施設の情報を一度に探すことができ、さらに専門知識をもったあんしん住み替え相談員と一緒に住み替え先を探してくれる。これなら、相談者も安心して相談することができますよね。

今後は、あんしん住み替え相談窓口をより多くの方々に周知していきながら、たくさんの相談員を育成して、定期的に相談会を開催していきたいと考えています。



# ■ こんな事業を計画しています

## ①情報の提供等

### ■ Saflanetホームページの更新・改善

様々な情報を提供するため、内容の充実を図ります。  
また、賃貸住宅や老人ホームなどの物件情報を更新し、さらに住み替え検索しやすいように改善していきます。

### ■ 会報誌の発行

これまでの取り組みや居住支援協議会の事業を広く周知するため、定期的に会報誌を発行します



## ②円滑入居促進・居住安定方策

### ■ 相談員育成講座の開催

不動産関係や福祉関係の専門知識を持った相談員を育成するために、様々なプログラムの講座を開催してスキルアップを目指します。

### ■ 相談会の開催

より適切な住み替えができるように相談員が相談に応じます。

### ■ 入居支援事業

保証人が確保できない方が賃貸住宅に円滑に入居できるような仕組みづくりについて調査・研究を行います。

### ■ 見守り支援事業

オーナーさんの不安を解消し、住み替え先で安心して暮らせるように、見守り支援の仕組みづくりについて調査・研究を行います。

## ③住宅市場の環境整備

### ■ オーナー向けセミナーの開催

住み替えをお考えの方が円滑に入居できる環境を整備するため、民間賃貸住宅のオーナーさん向けに空室改善対策などの情報提供や円滑入居に関する意識啓発などを行ないます。

### ■ シンポジウムの開催

円滑な入居促進に関する意識を啓発して理解を深めるため、居住支援協議会の取り組みを広く周知します。



発行  
熊本市居住支援協議会設立準備会

事務局：特定非営利活動法人 自立応援団  
住所：熊本市賈町780-8(フードパル熊本)  
TEL:096-245-5667/FAX:096-288-175

## ■ あんしん住み替え相談内容

### ■ 高齢者世帯の戸建から戸建てへの 住み替え相談

相談者は、80歳代のご夫婦。熊本市内北部の丘陵地に高度経済成長期に住宅を購入された。

いまは、夫婦二人の生活であるが若いころは気にならなかった家までの坂道が、生活上とても不便を感じるようになってきた。年をとってきて、体に不安が出てきてますます今の「住まい」に関して、住み替えの必要を感じるようになってきた。

そこで、現在の家を売却して、高齢者にとって利便性の高い平地にある戸建を購入したいというご相談でした。「こういう相談を受けてくれるところがあるのは、とてもありがたい。」とおっしゃって喜んでおられました。



### ■ 子育て世帯の住み替え相談

相談者は、子供3人を抱える子育て世帯の主婦だが、一年後には今の住まいを出ないといけない。家賃・間取りなどの条件等がいい物件があれば、夏休み中に引っ越しを考えている。

市営住宅への応募も考えているが、いろんな物件情報を教えてほしい。

市営住宅だけでなく、Saflanetに登録してある物件を紹介し、協力不動産会社などへ情報提供の依頼をお願いした。

住み替えに関する相談者の時間的な制約もありましたが、相談員の親切な対応に安心しておられました。



### ■ 現在お住まいの住居の問題から住み替え相談

相談者は、市内中心部の賃貸アパートに居住の、独居高齢者の方。現在居住している賃貸の壁面に亀裂が入っており、居住に不安を抱えているとのご相談。

建屋の強度確認などに、熊本県建築住宅センターを紹介したところ、ご自分の住宅知識以外の情報を得られて喜ばれていました。

また、将来的には高専賃への入居希望のご相談があり、Saflanetのホームページを紹介したところ、「こんな情報があるのか。」と情報を得る方法がわかられて充分納得して相談を終えられました。



# ■ 住み替えの現状について

## ■ 居住支援について

平成18年の障害者自立支援法は障害者の地域移行を推進し、これまでの障害者関係の在り方として施設中心の福祉に対して、地域福祉を中心的な理念に据え地域移行を推進しててきました。しかしながら、この考え方は総論では賛成であるが、具体的な話として「地域の中で障害者が一人で生活できるのか。」「うちの集落に住んでもらうのは困難。」などの意見等も聞こえ、障害者のグループホーム建設などでも地域住民の反対運動などが現在も起こっている現状です。このようなことから具体的な障害者の地域移行はなかなか進展がみられていない状況です。

また、障害者自立支援法では、障害者の就労支援にも力を注いできました。就労支援では「働く」ことはもちろんですが、働き先を見つけるにあたっては、地域によっては働き先がなく、働く場所によって住むところを見つけなければなりません。また、一旦就職が決まったところで、住生活が安定していなければ就労継続は困難だといわれています。すなわち、住むということは生活の一部であり、就労支援の一環でもあると考えます。つまり、地域移行においても大変重要な課題なのです。

第二城南学園 園長 甲斐正法

## ■ 高齢者の「住まい」の問題について

昔から「住まいとは生活の器である」と言われてきた。その人の暮らしが中心であることを指しており、建物の形状で生活の質も変わってくる。

高齢者には、加齢に伴う身体機能の低下や慢性疾患など、リスクの増大という不安が常につきまとう。中には、数センチの落差を跨げず、転倒して寝たきりになられた方も数多い。だからこそ、ご本人もご家族も「加齢」という問題を受容し、生きてきた住居からの住み替えを決断されるのだ。私たちとの関係は、ご本人が住み替えを決断された後のお付き合い。そこには、期待と希望が満ちていると考えるのが筋だろう。

最近、有料老人ホームに関するトラブルの記事を読んだ。広告と内容があまりに違ったこと、入居申込金の返還がスムーズに行われなことが原因とある。たしかに、高齢者には、あまりにも広告が多すぎる。善意による解決を望みたい。

東日本大震災では、今なお雨風をしのぐだけの生活を余儀なくされている方々が居られます。早期の復興と生活の回復が行われますよう心からお祈り申し上げます。

特別養護老人ホーム リデルホーム 中山泰男